

文学の里

文学の里 お問い合わせ

揖斐川町産業振興課

〒501-0692

岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪133

TEL<0585>22-2111

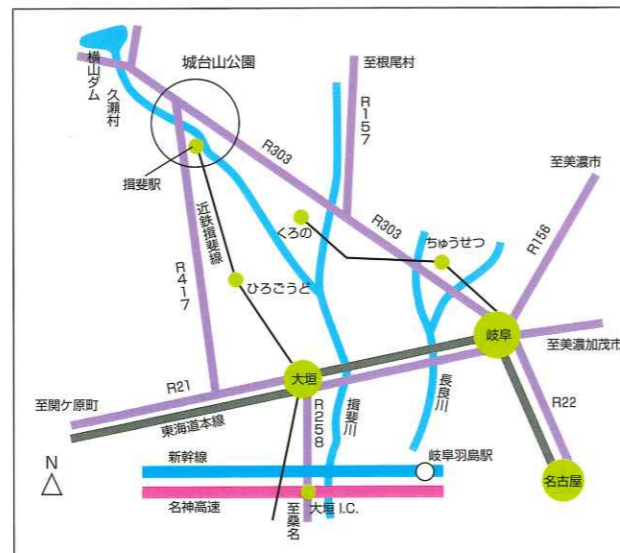
揖斐川町歴史民俗資料館

〒501-0603

岐阜県揖斐郡揖斐川町上南方901-5

TEL<0585>22-5373

交通のご案内



■車ご利用／岐阜市内から国道157号線と303号線で揖斐川町まで約50分。名古屋方面からは国道22号線から岐南I.C.を西へ、21号線と303号線を走り80分。高速道路利用の場合は大垣I.C.を下り258号線と417号線で約30分。

—文学碑をたずねる旅—



文学の里

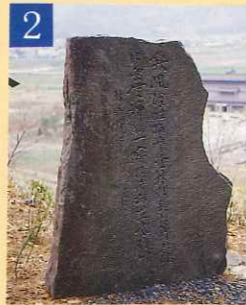
城台山公園を成すゾーンのひとつ
「文学の里」は、松尾芭蕉を始めとして、
 多くの文人たちの碑が建てられており、
 古今の文化が香る散歩道です。
 (片道約1.2km)



ゆふ闇の 空をとりて いづへなる
 水にかもゆく ひとつ螢は

さいとうもきち
斎藤茂吉

明治15年山形県生まれ。明治41年「アララギ」創刊。正岡子規以来の写生短歌を継承。大正2年刊行処女歌集「赤光」は近代短歌集中の傑作。昭和28年没。



鳴立澤所見
 秋風澤畔獨呻吟
 鷗影懸所斜照沈
 四望無端掃一寂
 清音別在老僧心

たなばしてんらい
棚橋天籟

幕末の文化人。各地の郡長、学校長を歴任し、撰斐高等学校の前身「天籟私塾」の創設、いび茶の普及など幅広く活躍した。水戸天狗党との交渉者として有名。



夜の木々に 光る雫は 幾千の
 まなごともみえて 音ひそめをり

よこたせんいち
横田専一

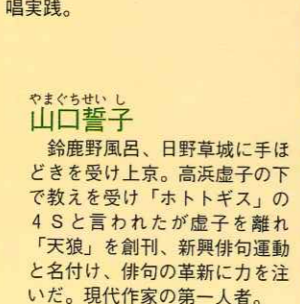
笹井嘉一門下の俊秀の一人。昭和32年「橋」短歌会を創設。「イメージの連想空間説」を提唱実践。



梅の蕾 まだ蒼くある 清潔に

やまだれいし
山田麗眺子

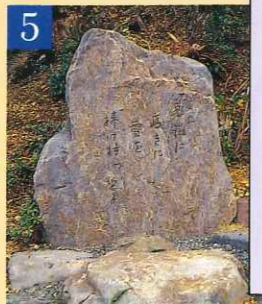
名古屋出身。「石楠」の白田亜浪に師事。句風はひたすらに平明。俳句結社「南風」を創刊。同誌主宰。



高嶽は 高きに雪を 捧げ持つ

やまぐちせいし
山口誓子

鈴鹿野風呂、日野草城に手ほどきを受け上京。高浜虚子の下で教えを受け「ホトトギス」の4Sと言われたが虚子を離れ「天狼」を創刊、新興俳句運動と名付け、俳句の革新に力を注いだ。現代作家の第一人者。



夕影を 曳く薄墨の 花に又

いなはたてい
稲畑汀子

師系は高浜虚子。父は高浜年尾で虚子の孫。年尾没後に日本最古の俳句雑誌「ホトトギス」を受継ぎ、同結社を主宰。朝日俳壇選者、日本伝統俳句協会会長。

22



鷗馴らしの 川の遠くに 雷伊吹

まついけいたろう
松井慶太郎

大正15年生まれ。秋田県出身。ホトトギス同人久米幸齋に学ぶ。長良川の鷗馴いの句を多作し、「鷗の慶太郎」と言われた。ホトトギス同人、日本伝統俳句協会会員。平成5年没。

21



鰻食い 帰らぬわれに聞けよとぞ
 播隆山の梵鐘は鳴る

いまにしひさき
今西久穂

昭和3年生まれ。撰斐川町三輪出身。歌誌「青幡」代表、「未来」編集委員。この歌は、第六歌集「幻桃月明集」に収録されたもの。平成9年没。

20

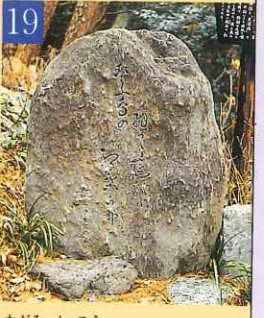


此山の 悲しき昔はよとこりほり

まつおぼし
松尾芭蕉

蕉風を開いて、俳諧に高い文学性を与えた。伊賀に生まれ、江戸で活躍したが美濃にも縁が深い。

19



かがみしこう
各務支考

芭蕉十哲の一人。寛文5年山県郡に生まれた。「美濃派」をおこし俗談、平話による俳風を唱えた。

18



ながつか
長塚

アラ表作に36歳の年初秋寄った

文学碑案内 MAP



朝顔の 紺のむかふの 遠伊吹

こんどういつこう
近藤一鴻

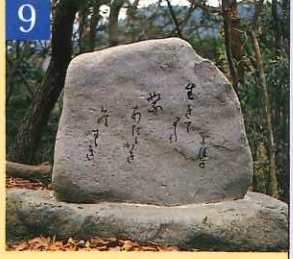
元県撰斐地方事務所長、県東京事務所長を経て現在、墨俣町在住。大野林火に師事。雑誌「貝寄風」の主宰者。県俳句協会元会長。



合流を みちびく撰斐の 夕螢

まるやまかいどう
丸山海道

京都出身。鈴鹿野風呂の次男。俳誌「京鹿子」主宰。佳子夫人も俳人。



生きて又 絮あたたかき 冬すき

はしもとたかこ
橋本多佳子

明治32年東京都生まれ。杉田久女より俳句の手ほどきを受け、のち山口誓子に師事。「天狼」に参加。昭和31年山下鶴匠の舟に誓子と乗舟した。

13



まついと
松井

昭和2年山口誓子「天狼」を創刊



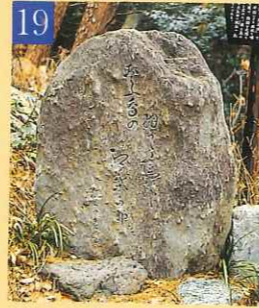
鰻食い 帰らんわれに聞けよとぞ
播磨山の梵鐘は鳴る

生まれ。揖斐川町三誌「青幅」代表、編集委員。この歌は、『桃月明集』に収録。平成9年没。



此山の悲しき告げよとこころほり

まつお ばしょう
松尾芭蕉
蕉風を開いて、俳諧に高い文学性を与えた。伊賀に生まれ、江戸で活躍したが美濃にも縁が深い。



飛ぶ鳥の 羽うらごがるる 紅葉かな

かがみ しこう
各務支考
芭蕉十哲の一人。寛文5年山県郡に生まれた。「美濃派」をおこし俗談、平話による俳風を唱えた。



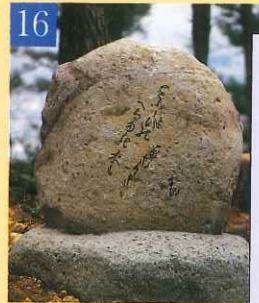
揖斐川の 築落つる水は たぎつ瀬と
とどろに砕け 川の瀬に落つ

ながつたかし
長塚節
アラガキ派草創期の歌人。代表作に「土」がある。大正4年36歳の若さで病死した。明治38年初秋、揖斐川の鮎築にも立ち寄った。



れんぎように 巨鯨の影の 月日かな

かねこうた
金子兜太
前衛俳句の旗手として活躍。社会性俳句を根づかせた。俳誌「海程」の発行代表。著書多数。現代俳句協会会長。



をどろの 糸瓜の水も 取らざりき

まさおかし き
正岡子規
俳人、歌人。四国伊予出身。明治中期より「写生」の手法に基づいた俳句の革新に力を注ぎ、高浜虚子など、多数の俳人を育てた。



●文学碑案内 MAP●



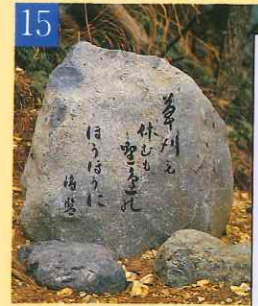
大櫻 散り初めて 刻止まらず

まついとしひこ
松井利彦
昭和2年岐阜市に生まれる。山口誓子、沢木欣一に師事。「天狼」「風」の同人。近代俳句に造詣が深く俳句研究に著書多い。



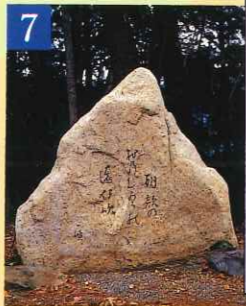
むらさきの あげびの花の 散る合に
山鳩のこゑ 二つきこゆる

みやしょうじ
宮柁二
大正元年新潟県生まれ。北原白秋門下。短歌会の二大結社のひとつ「コスモス」の元主宰者。



草刈も 休むも野辺の ほうぼうに

おかだしょうげん
岡田将監
岡田将監善政は美濃代官として郷土治水に身を捧げた世にも稀な民政の明主、文人で貞門俳人として一家をなした。妻は連歌師佐久間大膳亮勝之の娘。



朝顔の 紺のむかふの 遠伊吹

こんどういつこう
近藤一鴻
元県揖斐地方事務所長、県東京事務所長を経て現在、墨俣町在住。大野林火に師事。雑誌「貝寄風」の主宰者。県俳句協会元会長。



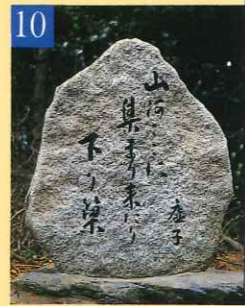
合流を みちびく揖斐の 夕螢

まるやまいどう
丸山海道
京都出身。鈴鹿野風呂の次男。俳誌「京鹿子」主宰。佳子夫人も俳人。



生きて又 絮あたたかき 冬すすき

はしもとたかこ
橋本多佳子
明治32年東京都生まれ。杉田久女より俳句の手ほどきを受け、のち山口誓子に師事。「天狼」に参加。昭和31年山下鞆匠の舟に誓子と乗舟した。



山河にこに 集まり来り 下り築

たかはまきよし
高浜虚子
香川県松山出身。正岡子規に師事。有季定型客観写生を提唱。山口誓子、日野草城、水原秋桜子等を育てる。現代俳句の土台を作った。小説家でもある。



蛙田の 百千の声 聞けば鳴く

わからはくでん
若原北田
揖斐川町清水出身。「天狼」同人として活躍し、戦後地元の俳句革新に力を注いだ。元県俳句協会選者及び監事。



落鮎や 流るる雲に 堰はなく

たかはしゆびろう
鷹羽狩行
師系は山口誓子。知的構成の事物の質感と形状を的確に描く。俳句とエッセイの選者。

心のふるさと

越美国境の深山に源を発し、濃飛平野を貫いて伊勢湾に注ぎ込む揖斐川の上流にある国定公園揖斐峡の四季折々の美しさは西美濃随一です。

この清流揖斐川を中心に広がる揖斐川町の北部には城台山公園があります。

この公園は城台山を中心に、雑木林の木立にさえずる野鳥のパードウォッチングが楽しめる「探鳥の里」、四季折々の花木に彩られる「四季の里」、揖斐城跡や三輪神社、一心寺など史跡、寺社巡りの「歴史の里」、桜並木に心が和む「さくらの里」、桂川の瀬音がやさしい「せせらぎの里」、幻想的なホタルの乱舞が見られる「ホタルの里」、多くの文人たちの碑が建つ「文学の里」の7つの里で形成されています。

これらの里は、散策道によって結ばれ、途中には「あづまや」が設けられています。散策道のまわりには、サクラやモミジ、あじさいが植えられ、花のプロムナードとして訪れる人の目を楽しませてくれます。

また、戦国時代、美濃国を支配する上で重要な意味をもっていた揖斐城の城跡



揖斐川町歴史民俗資料館

がある城台山山頂からは、揖斐川沿いに広がる風景が一望のもとに眺められます。

この公園の西の入口には歴史民俗資料館があります。先人たちの暮らしを伝える資料を約5千点ほど保存・展示しています。昔の農漁業の道具や復元された商家、お祭りの資料など興味深いものばかりです。

歴史の息づかい、自然の息づかいを感じる城台山公園散策。それは、心のふるさとを訪ねるミニ旅行になることでしょう。

城台山公園

じょうだいさん



文学の里

お問い合わせ

揖斐川町産業振興課

〒501-0692

岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪133

TEL(0585)22-2111

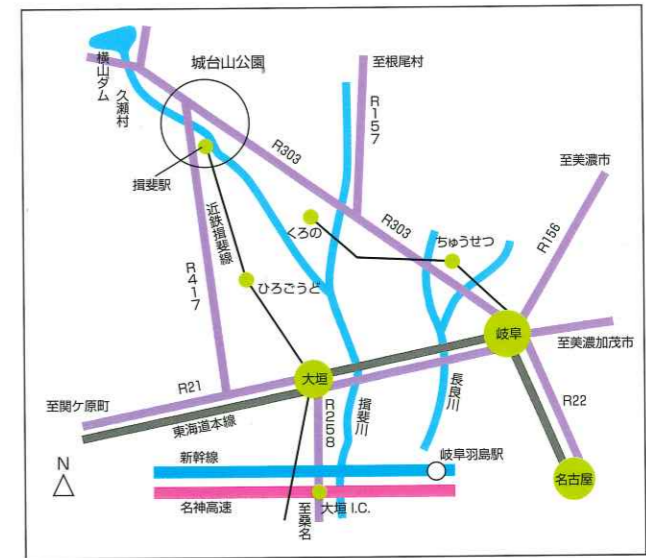
揖斐川町歴史民俗資料館

〒501-0603

岐阜県揖斐郡揖斐川町上南方901-5

TEL(0585)22-5373

交通のご案内



■車ご利用/岐阜市内から国道157号線と303号線で揖斐川町まで約50分。名古屋方面からは国道22号線から岐阜I.C.を西へ。21号線と303号線を走り80分。高速道路利用の場合は大垣I.C.を下り258号線と417号線で約30分。